

出題分析		
試験時間 60分	配点 100点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問4つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。全て記号選択式という出題形式は例年通りだったが、昨年はなかった地図問題や、リード文の空欄補充問題についても地理的理解を問う出題がみられた。今年は近現代史の出題がなくなった点が大きな特徴であり、また、昨年と同じく文化史の出題が一定数みられた。大半が標準的な内容であったため、全体的な難易度は昨年並みといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	中国史 (隋まで)	(3). 孝公の時期について知らなくても、リード文中の「戦国時代に入って」をヒントに考えれば、前4世紀だと判断できる。(4). 秦の孝公は咸陽を都とした。なお、邯鄲 ^{かんたん} は趙の都、臨淄 ^{りんし} は齊の都である。(8). 東晋時代の僧である法顕は、 Gupta 朝時代のインドへ陸路で訪れた (帰りは海路)。玄奘と義浄についても、当時の中国とインドの状況、往復ルート、著書などはまとめて整理しておきたい。(9). 北周は西魏の禅譲を受けて成立したが、華北の統一後に外戚の楊堅に帝位を譲り、隋が成立した。	やや易
II	ヘレニズム時代	(2). ギリシアの諸ポリスのうち、スパルタのみ コリントス同盟に参加しなかったことも覚えておきたい。(4) と (5) は地理的な理解が求められた。(4) は基本事項だが、(5) は差がついたであろう。アクティウムの海戦はギリシア西岸 (ペロポネソス半島の北西) で行われた。16世紀前半のプレヴェザの海戦とほぼ同じ位置であるため、あわせて覚えておきたい。	標準

III	アッバース朝	問 1・問 2：第 2 代カリフのマンスールは、ティグリス川中流の西岸にバグダードを建設した。問 9：(イ)。正統カリフは、アブー＝バクル→ウマル→ウスマーン→アリーの順である。問 10：エジプトに建設されたミスル（軍営都市）であるフスタートとほぼ同じ位置に、ファーティマ朝時代にカイロが建設されたことも覚えておきたい。問 12：(ウ)。ファーティマ朝が建国されたのはチュニジア。問 15：少し戸惑ったかもしれないが、(イ) が明らかに誤りだと判断できる。	標準
IV	イギリス史 (中世～近世)	(2)。ウェールズはテューダー朝のヘンリ 8 世によって 1536 年に併合された。その後、スコットランドがステュアート朝のアン女王時代の 1707 年に、アイルランドがハノーヴァー朝のジョージ 3 世時代（ピット政権下）の 1801 年に併合されたことも覚えておきたい。(5)。1607 年にイギリスは北アメリカ最初の植民地としてヴァージニアを建設した。ニューイングランドと混同しないように注意したい。(6)。独立派は水平派と結んで長老派を議会から追放し、チャールズ 1 世の処刑後に水平派も弾圧した。問 2：(C) に入る文が (b) だと判断できれば、(D) については (a) が明らかに誤りであるため、(b) を知らなくても消去法で解答できる。問 3：(F)。航海法は、オランダの中継貿易に打撃を与え、国内の産業を守ろうとする重商主義政策の一環であった。	標準

合格のための学習法

関西大学の入試世界史では、基本的な知識で解答できる設問が大半であるため、ケアレスミスによる失点がないように注意する必要がある。標準レベルの設問を素早く解くことができれば、正誤判定問題などに対処する時間を確保することができる。判断が難しい設問に直面しても、動揺せずにリード文やほかの設問文の情報などをヒントにし、消去法も用いて正答を導けるようにしよう。また、設問の大半が文化史である大問が出題される場合があるほか、本日程のように地図問題が出題されることもある。教科書や資料集の地図を積極的に活用し、国や都市だけでなく川や山脈などの位置もあわせて正確に把握しておきたい。